

名古屋外国語大学 数理・データサイエンス教育プログラム(リテラシーレベル)

名古屋外国語大学 数理・データサイエンス教育プログラムに係る自己点検・評価の概要(2024年度)

1. 点検・評価の実施

名古屋外国語大学メディア情報・データ科学センター データ科学教育研究部門が主体となり、2024年度における「数理・データサイエンス教育プログラム」を構成する授業科目について点検・評価をおこなった。

2. 点検・評価の対象

当該プログラムを構成する8科目「情報リテラシー」、「データサイエンスA」、「データサイエンスB」、「プログラミング言語」「AI・データサイエンス入門」、「社会調査法」、「AIとの共生社会」、「Contemporary Culture and Data Science」について、点検・評価をおこなった。

3. 点検・評価の根拠資料

- ・ 上記科目を対象とする「数理・データサイエンス教育プログラム（MDS）関係科目授業評価アンケート2024年度1期」
「数理・データサイエンス教育プログラム（MDS）関係科目授業評価アンケート2024年度2期」
- ・ 上記科目のシラバス、履修要項
- ・ 上記科目の履修状況に関するデータ

4. 自己点検・評価の結果の総括

後述の4つの視点から自己点検・評価を実施した。2024年度から選択科目「Contemporary Culture and Data Science」を追加した。そのことにより、学生は2年次以降においても当該プログラムの履修機会がより得られるようになった。結果として、プログラムの履修者数および履修率は高い水準にある。アンケート調査から学生の満足度および理解度は総じて高い。一方で、「データサイエンスA」など一部の科目において、学生の理解度と授業内容及びスピードとにミスマッチが起きているようである。今後も現状把握をおこなうとともに、改善が欠かせない。

《点検・評価結果の概要》

1. 教育プログラムの履修・修了状況・学習成果の把握・改善

2024年度から選択科目として「Contemporary Culture and Data Science」が追加され、2年次以降においても当該プログラムの履修機会が得られるようになり、プログラムの履修者数および履修率は高い水準にある。

2. 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度・後輩等他の学生への推奨度の把握・改善

「情報リテラシー」「データサイエンスA」、「データサイエンスB」、「プログラミング言語」「AI・データサイエンス入門」、「社会調査法」、「AIとの共生社会」、「Contemporary Culture and Data Science」のアンケート結果の概要は表のとおりである。

いずれの項目も昨年度と同様に高い水準であることが確認できる。多くの質問項目で昨年度を上回っている。一方で、「授業の進み具合」および「授業レベル」に関する質問項目については、昨年度を下回った。アンケートの結果から履修者の多くは本プログラムの重要性を強く認識しており、来年度以降における学生の理解度を考慮した授業進行、またより適切な予習・復習の指導により、本プログラムのいっそうの成果が得られるだろう。

2024年度	
アンケート項目	平均値
この授業は、全体として満足であった	3.77
この授業には、休まず出席していた。	4.19
この授業には、真剣な態度で受講した	4.16
この授業に関して予習、復習などを積極的行なった	3.18
教員はわかり易く説明していた	3.84
教員は授業に熱意を持って取り組んでいた	3.94
この授業に大変興味を持てた。	3.50
授業の進み具合はどうだったか	2.66
授業のレベルはどうだったか	3.32

* 最高点が5点、最低点1点

3. 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

2025年度におけるプログラム構成科目の授業内容の変更等により、2025年度はより充実したプログラムになることが期待されるとともに、これまでと同様に多くの履修が見込まれる。

4. 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価・産業界からの視点による教育プログラム内容・手法等への意見

卒業生を対象にアンケート調査を実施するとともに、本学卒業生を採用している企業を対象にデータサイエンス・AI教育に関する意見を聴取し、プログラムの改善に役立てる。